

# サーフィンは、

アメリカをはじめオーストラリア、ブラジル、ヨーロッパなど世界各地で愛好され、サーフィン人口は日本国内で250万人、世界では3,500万人を超えているとされています。日本でも、若者の定番スポーツとしてファッションやライフスタイルにまで大きく影響を及ぼしています。

また、スポーツとしても世界で定着しつつあり、多くの国で多数の競技会が開催されています。一昨年、田原市で開催された日本サーフィン連盟主催の『第51回全日本サーフィン選手権大会』は、1,000名もの選手が6日間の熱い戦いを繰り広げた国内最大級の祭典として大きな話題となりました。

サーフィン競技は、2016年8月3日(日本時間4日)のIOC総会において2020東京オリンピック追加種目競技として正式承認されました。サーフィンは「スポーツ性」「ライフスタイル」「若者の文化」と、他に類をみない調和があり、さらに特別なスポーツ種目へ成りうる可能性があります。

今回、「2018 ISA World Surfing Games」の開催が話題と注目を集め、「田原(TAHARA)」の名前が世界に発信されるとともに、田原市が目指すサーフタウン発展の起爆剤となることでしょう。そして、大会を通じてビーチクリーン活動にも積極的に取り組み、「きれいな海を次世代に」を合言葉に、海の環境保護について幅広く働きかけていきます。



Photo: ISA / Sean Evans



Photo: ISA / Ben Reed



Photo: ISA / Sean Evans

## ISA World Surfing Games とは

「国際オリンピック委員会 (IOC)」の「国際競技連盟 (IF)」に所属する「国際サーフィン連盟 (ISA)」が主催する大会で、1964年に第1回世界選手権として開催され、以後世界各地で1年または2年おきに開催されています。

サーフィンの世界チャンピオンと国のランキングを決定する世界選手権であり、世界を目指すサーファーにとっては、「サーフィンのオリンピック」として認知されています。

日本では、1990年の第13回大会以来28年ぶりの開催となり、2020東京オリンピックへ向けての大きな話題となることが期待されています。

2017年5月に、フランス・ビアリッツで開催された「2017 ISA World Surfing Games」は、過去最高の47か国、245選手が参加し、世界における関心の高さが伺えました。この大会で、日本は団体初の総合5位と健闘し、2020東京オリンピックに向けて、大きな弾みとなりました。

### 大会概要

大会名称：2018アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス  
(2018 URBAN RESEARCH ISA WORLD SURFING GAMES)

大会日程：2018年9月15日(土曜)～9月22日(土曜)

大会会場：ロングビーチ(愛知県田原市 赤羽根町大石海岸)

主催：国際サーフィン連盟(International Surfing Association)

主管：一般社団法人日本サーフィン連盟、2018 ISAワールドサーフィンゲームス実行委員会

共催：田原市、田原市教育委員会

後援：愛知県、愛知県教育委員会、渥美半島観光ビューロー



観戦無料 フードコートやステージイベントのお楽しみエリア併設予定